



## 1 飛騨山脈ジオパーク構想フォーラムのご案内（別紙参照）

飛騨山脈ジオパーク推進協議会より「飛騨山脈ジオパーク構想フォーラム」の案内がありました。お時間がありましたらふるって参加をお願いします。（無料）

【期日】12月3日（日）13時30分～15時40分

【会場】奥飛騨総合文化センター（奥飛騨温泉郷村上1689-3）

【内容】基調講演：「立山ジオパークの取り組み」立山ジオパーク境界

事例発表：「砂防学習」高山市立栃尾小学校4年生

フォーラム：三井 栄（岐阜大学地域科学部教授）

下畑 五夫（飛騨地学研究会）

國島 芳明（高山市長）など

## 2 巡検報告（乗鞍岳の岩石と地質）

さる、9月30日（土）、乗鞍岳巡検を行いました。飛騨山脈ジオパークに関連した巡検3回目です。集合地の丹生川支所駐車場は、イベントのようで駐車禁止の掲示がありました。そのため、全員で朴ノ木平駐車場まで移動しました。参加者は、下畑、中田の飛騨地学会員その他、高校関係者（吉城高校、益田清風高校）2名、吉城高校地学部生徒（4名）の計8名でした。集合地での天気は、その後の晴天を約束する盆地霧（層雲）で、朴ノ木に近づくと、乗鞍岳のシルエットが見えてきました。



写真1 恵比寿岳（恵比寿火山体）と畳平

今回は高校生もいるので、まず、朴ノ木平バス停で今回の資料を見ながら、朴ノ木平の山地帯、平湯峠からの亜高山帯、乗鞍上部の高山帯の景観の変化を、バスの中で見てほしいことを話しました。

バスで約40分。乗鞍岳畳平に着きました。バスから降りると、予想通りの寒さです。おまけに風が強く、防寒着で出発しました。最初は林道歩きです。鶴ヶ池の湖畔で、鶴ヶ池が堰止湖で池の形が鶴に似ていること、乗鞍岳の安山岩、9月初めにはあったコマクサについて説明しました。

林道を行くと、乗鞍岳では最近の噴火（約2万年前）の恵比寿火山体の全体が見えるので、振り返って確認しました。噴火口の形もよく残っており、火口には亀ヶ池があります。

亀ヶ池は、日本で最初に構造土（亀甲砂礫）が見つかった場所で、亀ヶ池の名も亀甲砂礫に由来するといえます。

それから林道脇に富士見溶岩流の板状節理が見えてきました。柱状節理は溶岩の表面に垂直にできる割れ目ですが、板状節理は平行にできる割れ目です。どちらも、マグマが冷えて固化する時、体積が収縮するためできるといわれます。板状節理は安山岩溶岩に多いといわれますが、溶岩の奥まで及んでいる場合は説明しにくく、溶岩流が後ろから押された時の圧力でできるともいわれます。

コロナ観測所の分岐まで来ると、前方に権現池火山体、主峰剣ヶ峰が見えてきます。乗鞍では最近、約9千年前の噴火の火山体です。肩の小屋から下方を見ると、位ヶ原溶岩流の溶岩堤防が見えます。溶岩が流れた後、その両側が先に冷えるため残った高まりです。

肩の小屋は、登山者でにぎわっていました。うどんなど食事もできます。林道はここまでで、登山道が始まります。ここから剣ヶ峰までのコースタイムは40分です。まず、足元の石を見ます。黒くて穴だらけの石でスコリアといえます。スコリアは、権現池火山の噴火の時、発砲したマグマが空中で飛び散ったものです。水蒸気の気泡が作った穴が多いため軽い石で、白いものは軽石といえます。

少し登ると霜柱があり、平坦地のスコリアは亀甲砂礫の模様が見つかります。池の周囲でなくても亀甲砂礫ができることがわかりました。さらに登ると、ひび割れの入った直径1m程度の火山弾が見つかります。これは、パン皮状火山弾といって、空中を飛ぶマグマの表面が先に冷えて固化し、収縮するためできたひび割れです。権現池火山体の噴火に遭遇すれば、このあたりは相当危険だったといえます。御嶽山の噴火災害を思い出しました。

ようやく朝日岳まで登ると、旧噴火口にできた権現池が見えてきました。ここからは溶岩の岩塊の間を、登山者の行列の後を歩きます。山頂は3000-mの絶景です。山頂神社の長野県側で風を避けて、生徒は昼食でした。北方を見ると、乗鞍が様々な時代の噴火の積み重なりでできた複合火山であることがよくわかりました。全員が山頂にそろってから写真を撮って下山しました。



写真2 手法剣ヶ峰（権現池火山体）

### 3 事務局だより

今年の年末は、急に寒くなりました。今年4回目の巡検は、奥飛騨温泉郷の双六谷を計画していましたが、雪の心配もありますので、来年度にします。広報高山のジオパークの連載が始まりました。原稿の依頼がありましたら快くお願いします。来年1月下旬に、飛騨地学研究会総会を行う予定です。詳細は次号で連絡します。